



NEXCO西日本グループのCSR活動にご意見をいただく会

NEXCO西日本グループは、CSRを推進・発展させていくためには、ステークホルダーとの対話が重要だと考えています。当社グループの取り組みの方向性が社会からの要請とずれていないかを検証するとともに、お客さまや社会のご期待、ご要望を事業プロセスに組み込み、社会的責任を果たしていくために、ご意見をいただく会を開催いたしました。

開催日：2011年5月12日(木)、27日(金)
場 所：NEXCO西日本 本社 会議室
出席者：ステークホルダーの皆さま 9名
NEXCO西日本グループ 11名
(所属・役職は開催当時のものです)

■ 議論するテーマについて

2011年4月、NEXCO西日本グループは中期経営計画2015を発表しました。この事業計画に沿って、当社グループが今後のCSRへの取り組みを進めていくにあたり重要だと思われる、また社会からも要請が高いと考えられるテーマを抽出し、大きく3つのテーマでステークホルダーの皆さまに意見をいただくこととしました。

個別に議論したテーマ

テーマ1 安全・安心の追求

テーマ2 事業創造に向けて

テーマ3 環境への配慮

■ ご意見をいただく会を終えて

NEXCO西日本グループのCSR活動方針に基づき、最新の取り組みを参加者の皆さまにご説明させて頂くとともに、皆さまのご経験から有益な示唆を多数頂くことができ、たいへん内容の濃いステークホルダー・ダイアログ(対話)となりました。

- ▶ 高速道路の防災機能に期待
- ▶ 高速道路のアイデンティティを大切に
- ▶ CSRの取り組みは事業活動そのもの

など、テーマ毎にいただいた貴重なご意見や高速道路への期待は、経営幹部をはじめグループ全社にフィードバックするとともに、今後のCSR推進の中で生かしてまいります。

テーマ1 安全・安心の追求



田中 康二氏



久原 里之氏



大関 聡子氏

ステークホルダーの皆さま

田中 康二氏 一般社団法人 日本自動車連盟(JAF) 関西本部 事務局長 理事
久原 里之氏 日本通運株式会社 大阪支店 部長
大関 聡子氏 株式会社サンテレビジョン 編成局パブリックセンター

NEXCO西日本グループ出席者

角田 直行 保全サービス事業部 部長
村尾 光弘 建設事業部 部長
北村 弘和 経営企画部 部長
北田 正彦 広報部 部長



■ 主なご意見とNEXCO西日本からの回答

ご意見① 二次事故の防止対策を

高速道路で事故に遭われたお客さまの車両に、他の車が前方不注意などで追突するといった二次事故が発生することがあります。NEXCO西日本さんの方で、より一層の注意喚起と後方警戒車両の要請をお願いしたい。

▶▶ ご意見を受けて

高速道路上で事故が発生した場合、直ちに現地に交通管理隊を向け、安全な位置へのお客さまの誘導や二次災害防止のための後尾警戒などを行っており、今後も迅速な対応を徹底します。また、最近は保険で契約しているレッカーを呼ばれ、結果的に時間を要しているケースもあり、関係機関やレッカー会社等と連携しながら交通機能の早期回復を目指していきます。

ご意見② 災害情報の発信強化を

車で高速道路を移動していると余震などが起きても体感しない場合があります。緊急時は、高速道路上から強制的にでも情報を発信する装置を作れないでしょうか。

▶▶ ご意見を受けて

高速道路を走行中の災害情報については、情報板、ハイウェイラジオ、アイハイウェイなどでお客さまにお知らせしています。今後は、マルチメディア放送を活用することで、緊急時には割り込み放送で情報を伝える手段も展開できないかと検討を進めています。

ご意見③ 事故防止の一層の注意喚起を

昨年は1,000円割引や無料化実験などで普段あまり高速道路を利用しない方々が一斉に利用することで事故も増えたのではないかと。原因として多い事象などを具体的に注意喚起をできないか。

▶▶ ご意見を受けて

渋滞箇所看板やLED標識を設置し注意喚起を行ったり、高速道路の運転に不慣れなお客さまに向けて、チラシや広報誌などで走行マナーの向上を呼び掛けています。また、広く企業と連携し「ドライブ&ラブ」というプロジェクトを立ち上げ、運転に対する安全意識を高める活動にも取り組んでいます。さらに今後は、車両等の位置情報(プローブデータ*)などを収集・分析することで潜在的な事故ポイントが抽出可能となり、よりきめ細やかな交通安全対策や情報提供を行っていきます。

※GPSを搭載した自動車から得られる移動軌跡情報(緯度経度、車両ID、時刻)のこと

ご意見④ 高速道路の防災機能に期待

津波災害に対しては、海に近い場所ではいくらか防災備蓄などの備えをしてもすべて流されてしまう可能性がある。高速道路は比較的高台に位置し施設もあるため、いざというときには避難場所になるという役割も意識されては。

▶▶ ご意見を受けて

東日本大震災では、道路の盛り土が津波を防いだり、避難地の役割を果たしました。現在、府県や政令指定都市と防災を含む包括的な協力協定を結んでいるところで、災害時の情報連携や活動拠点としてのSA・PA活用などについて協議しています。また、東日本大震災を踏まえた災害対応力の向上に向け、具体的な検討も進めています。



津戸 正広氏 宋 基燦氏 寺西 保氏

ステークホルダーの皆さま

津戸 正広氏 大阪府立大学 経済学部 教授
 宋 基燦氏 京都大学大学院 文学研究科 GCOE研究員
 寺西 保氏 阪急バス株式会社 常務取締役

NEXCO西日本グループ出席者

東 孝弘 技術部 部長
 竹下 育朗 事業開発部 部長
 小橋 慶三 経営企画部 次長



■ 主なご意見とNEXCO西日本からの回答

ご意見① 本業起点とアイデンティティを大切に

本業を起点とした道路で培ったノウハウの外部展開や、高速道路会社としてのアイデンティティ（独自性）を大切にしたい事業の創造を期待しています。

▶▶ ご意見を受けて

高速道路会社としてのアイデンティティは大切にしつつ、一般道路事業に参画したり、自治体の公園を管理受託する事業にも進出しています。今後も本業のノウハウを生かせる事業の創造を積極的に推進します。また、高速道路事業の体制を維持強化するためにも外部展開を強化していきます。

ご意見② アイデアを生かす体制づくりを

事業アイデアを募集するときは華々しくて比較的簡単だが、出てきたアイデアをどう整理して取り入れていくか、アイデアを生かす体制が重要ではないか。

▶▶ ご意見を受けて

ご指摘いただいた点は大変重要だと感じています。アイデアが具体化してきたときに、直接参画してもらうようなことも考えています。また、何らかの形で表彰をして、あなたの意見が会社で認められて検討しています、ということをグループ全体に発信していくといったプロセスの「見える化」を図っていく考えです。

ご意見③ ITで双方向参加の場づくりを

多くの人がインターネットを利用できる時代ということを考えると、ただ高速道路に乗る人だけではなく、そこに興味を持って集まってくる人が増えれば価値が生まれると思います。そのためにいろいろな人がインタラクティブに参加できる「場」をつくってあげることが大事ではないでしょうか。

▶▶ ご意見を受けて

社内からもネットワークを使って情報交換をしようというアイデアが提案されています。当社には道路公団時代からの情報の蓄積もあり、それをどのように加工してニーズに合ったものにするかがポイントだと思います。

ご意見④ SA・PAを生活拠点に

高速バス会社と連携するなど、SA・PAを「生活の拠点」としてもっと活性化できないでしょうか。わざわざ都市部まで行かなくても、そこで十分事足りるような施設にできないか。

▶▶ ご意見を受けて

SA・PAの拠点活用について、事業創造の公募ビジネスパートナーの方からも提案を頂いています。内容は、まだ公表していませんが、今後具体化していくよう準備しています。



足立 忠幸氏 高松 啓二氏 納谷 有可里氏

ステークホルダーの皆さま

足立 忠幸氏 株式会社京阪レストラン 代表取締役社長
 高松 啓二氏 近畿日本鉄道株式会社 常務取締役
 納谷 有可里氏 大阪放送株式会社 編成局 編成部 主任

NEXCO西日本グループ出席者

馬場 照幸 環境部 部長
 永山 力 緑化担当 部長
 北村 弘和 経営企画部 部長
 北田 正彦 広報部 部長



■ 主なご意見とNEXCO西日本からの回答

ご意見① 自然エネルギーの利用促進に期待

貴社は3,000km以上の高速道路インフラを有しており、太陽光発電の設置など自然エネルギーを普及させる可能性を秘めています。このインフラを生かす形で、再生可能エネルギーの創出に、もっと道路が使われてもよいのではないのでしょうか。

▶▶ ご意見を受けて

2009年度は遮音壁と太陽光発電設備を一体化させる試みを行い、2011年度から山田SAを「エコエリア」として、使用するエネルギーを省エネルギーや創エネルギーによって賄うモデルを計画しています。また、将来的には、高速道路ののり面を使って太陽光発電を行うなど、さまざまな方法を地域の方々と協力して進めていくことも考えています。

ご意見② ドライバーへの啓発や優遇を

高速道路から出る温室効果ガスの約8割が利用される自動車からのものであれば、ドライバーへの働きかけが大事ではないか。ハイブリッドカーや電気自動車など環境に優しいものに対しては優遇措置を検討してもよいのではないのでしょうか。

▶▶ ご意見を受けて

現在、西日本エリア内にEV（電気自動車）用急速充電器を7基設置するなど、EV普及に向けた取り組みを自治体等と協力しながら始めたところです。環境に優しい自動車の普及へ向けて、国の普及促進策の動向も踏まえ、より柔軟なアイデアによって、検討していく必要があると考えています。

ご意見③ CSRの取り組みは事業活動そのもの

CSRの取り組みは、企業の社会的責任としてではなく、事業活動そのものと捉えてもよいのでは。従来サービスの延長線上で効率を追求するばかりではなく、地域の中へ、地域と一緒に考えていけば、新たな価値や経済活動が出てくると思う。

▶▶ ご意見を受けて

経営計画においても、CSRを共通の目標として事業活動に組み込んでいく方針です。環境や社会の課題を調べることによって、その解決に新たな事業があると思います。生活の中の課題を拾い上げて、みんなで解決しようという方法を考える。そこにきっと新たなビジネスチャンスがあるのではないかと考えています。

ご意見④ 環境への取り組みの発信強化を

本日で説明いただいたような環境への取り組みは大変素晴らしいものもあるのですが、それが十分に社会に伝わっていないものが多いように思います。レポートやホームページは知りたいと思った人しか見ないので、他の媒体やSA・PAなどを利用した発信も考えてみてはいかがでしょうか。

▶▶ ご意見を受けて

社員が小学校へ出かけて説明を行う出前講座や現場ごとで現地説明会なども実施はしているのですが、まだまだ十分にお伝えできていないのが実情です。SNSなど新しいコミュニケーションのあり方も出てきていますので、うまく取り入れながら一方通行にならないよう対話をしていきたいと思っています。